

ごけん

平成 25 年

春

号

日本語検定 実施予定

平成 25 年度第 1 回 (通算第 13 回)

[一般会場] 6月15日(土)

[準会場] 6月14日(金)・15日(土)

[申し込み期間] 3月18日(月)～5月17日(金)

後 援：文部科学省／日本商工会議所
経団連事業サービス／全国連合小学校長会
全日本中学校長会／全国高等学校長協会
全国高等学校国語教育研究連合会
日本 PTA 全国協議会
全国高等学校 PTA 連合会
日本青少年育成協会 他

特別協賛：読売新聞社

協 賛：時事通信社／東京書籍



日本語検定公式キャラクター「にほんごん」

もくじ

ごけんインタビュー	
吉元由美	2
ごけん情報板	4
採点室から	5
第4回日本語大賞 表彰式	6
こんなに面白い！	
日本語の方言 ③	7
受検団体の声	8
にほんごん にほんご劇場	10
受検案内／プレゼント・クイズ	12

特定非営利活動法人

日本語検定委員会

日本語にこめられた心を 生きていきたい



ものには、作った人の心がこもっている。娘が幼稚園に入る頃だったか、そんな話をしたことがあります。料理には、「おいしく食べて下さい」という作った人の心がこもっている。野菜にも、作った人の心がこもっている。

「家には大工さんの心がこもっているね」

と、娘が言いました。

「どんな心がこもっているの？」と尋ねると、

「この家で、家族が仲良く、あったかく暮らせますように、かなあ」

と、娘は答えました。そして、テーブルの上に並べたドングリの実を手のひらにのせてこう言ったのです。

「種には、神様の心がこもっているんだね」

娘のこの言葉は、おそらく私の人生の中でいちばんと言っていいほどの、心に残る名言になると思います。生命の真実なのか、宇宙の真実なのかわかりませんが、命というものに対する何か、そして命に向き合う私たちにとって大切な何かを言い当てているように思うのです。この命には、神様の心がこもっている。感謝して、大切に生きていこう。この気持ちがあれば、どれだけ喜びに満ちた毎日を送れるでしょうか。

作詞家になって三十年近い年月が経ちました。長年言葉を扱う仕事をしてきても、今でも言葉というものがいったい何

であるのかわかりません。いえ、今やっと言葉、日本語を学ぶ入口に立ったように思います。文章を書けば書くほど、日本語を勉強すればするほど、その奥深さに驚き、そして日本の言葉の中にある精神性の高さに感動を覚えます。

娘が「種には、神様の心がこもっている」と言ったように、言葉には、その心がこもっている。東日本大震災の後、私たちは日本の危機を感じました。あのとき、改めて私たちは日本という国、日本人であるということに對峙することになりました。日本が多くの困難を抱えている今、ひとりひとりが復興の担い手になったのです。そこで、まず私たちにできることは、日本語を大切にし、日本語にこめられた意味を生きることだと思います。

「言霊^{ことばたま}の幸わう国、言霊^{ことばたま}の扶くる国」

「万葉集」の中で、山上憶良は日本という国についてこのように歌に詠んでいます。日本は、言霊を大切に作る国。たとえば、私たちが毎日かわす挨拶にこめられた思いを大切にすることによって、心が清められていくように思うのです。

「いつてらっしゃい」という言葉には(無事に帰って来ますように)という祈り。「お帰りなさい」には、(無事に帰ってくる)ことができ、ありがとうございます)という感謝がこもっています。「いただきます」には、食べ物への感謝と命をいただいで生かされているという謙遜さ。「ごちそうさま」には、感謝の気持ちがこめられています。このような日常的な言葉に

こめられた深い精神性を意識することによって、生き方そのものが変わっていくように思うのです。それが、大きく言うと日本の復興につながっていくのです。

「言の葉塾」という講座を、月に一度開いています。おかげさまで、募集を始めると早い段階で満席になります。それだけ「言葉」について高い関心があり、なんとか言葉をうまく使えるようになりたい、いい文章を書けるようになりたいという強い思いを持っている人がたくさんいるのです。

現代の日本語の乱れを嘆くより、まず自分から美しい日本語を整えていきたいと思っています。丁寧な言葉づかいをすると、とても心地よく、心が清い流れにのっていくようです。もう一度自分の日本語を確認してみましょう。たとえば、大人が尊敬語、謙讓語、丁寧語をきちんと使うことが、日本語の持つ精神性を高めていくことにもなるのです。高い教養が、文化を成熟させていきます。日本語検定は、その学びの大きなきっかけになるでしょう。言霊の幸わう国を未来につなげていくために、日本語にこめられた心を生きていきたい、そして伝えていきたいと思っています。

よしもと・ゆみ

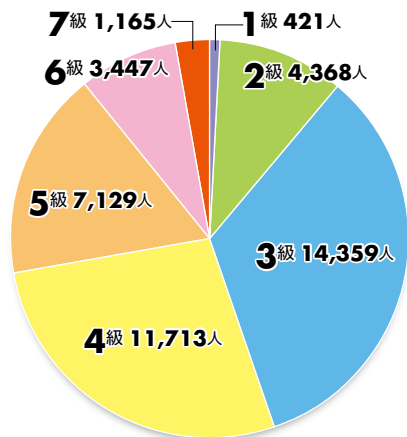
東京生まれ。1984年作詞家デビュー。杏里、松田聖子、中山美穂、加山雄三などの作品を手掛け、平原綾香の『Jupiter』はミリオンヒット。著書は『みんなつながっている—ジュピターが教えてくれたこと』(小学館)『凛として立つ』(三空出版)『こころ歳時記』(ディスカヴァー21)など多数。また「吉元由美のLIFE ARTIST」を主宰。「私たちは人生のアーティスト」をテーマにサロンセミナー「言の葉塾」などを展開している。

ごけん情報板

このコーナーでは、昨年11月に実施した、平成24年度第2回（通算第12回）日本語検定について、各級の受検者数などのデータをご紹介します。

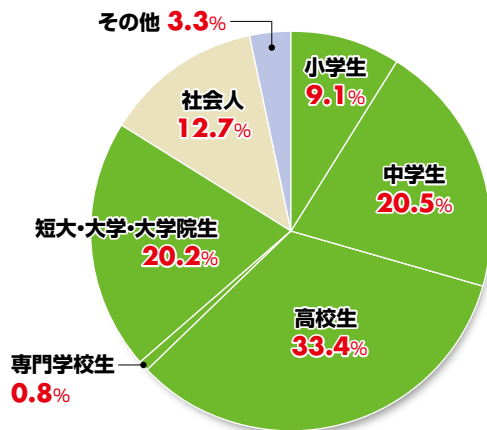
◎平成24年度第2回（通算第12回）

■受検者総数と級別受検者数

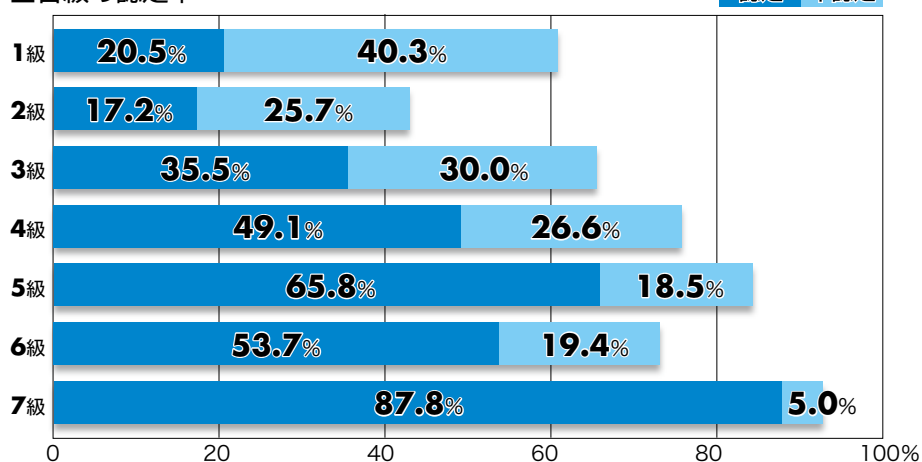


計 **42,602人**

■受検者の学校・所属別割合



■各級の認定率



採点室から

24年度第2回の問題より

1～4級で、出来があまり良くなかった問題をご紹介します。いずれも、「漢字を書く」ことが含まれている問題です。

■3・4級では、パソコンで文を入力するときの単語の変換ミスを指摘する問題（誤っている言葉の正しい書き表し方を記入する）が出題されています。いくつかの問題を、誤答とともにご紹介しましょう。

○「多様な異文化を需要したことが、結果として独自の文化を生み出すことになった。」
(3級問題—正答率25.5%)

★「需要」は「受容」が正しいのですが、この言葉の漢字がおかしいとわかって、正しく表記することのできなかった人が多くいたようです。また、「需要」は正しいと考えて、「産み出す」とした人もいました。

○「僚友並び立たずで、中心だった二人の対立が深刻化し、チームは解散に至った。」
(3級問題—正答率16.4%)

★「僚友並び立たず」の「僚友」が誤っているのですが、この問題も上の「受容」と同様に、「両雄」と正しい漢字を書くのは難しかったようです。「両友」「良友」などの解答がありました。

○「寄付は本人の意志によってなされるべきであり、他者が共用してはいけない。」
(4級問題—正答率19.5%)

★「共用」が「強要」となるのが正しいのですが、「供用」や「共要」「供要」とした解答も多くありました。

○「この計画には根本的な欠陥があるから、再興が必要だ。」
(4級問題—正答率25.7%)

★「再興」が「再考」となるのが正しいのですが、「欠陥」を誤りとして、「陥」の字を変えたり「欠点」に直してしまったりする誤答も目立ちました。

■1・2級では、□に入る適切な漢字一字を書き、その言葉を適切に用いている文を選ぶという問題が出題されています。その中で難しかったと思われる問題は、次のようなものでした。

【昼夜□行】
(1級問題—正答率20.5%)

- ① 昨夜から昼夜□行で取り組んで、何とか納期に間に合った。
- ② これまでは夜だけだったが、この店は四月から昼夜□行で営業するそうだ。

★(誤答例)「昼夜敢行」で②。(正答)「**昼夜兼行**」(ちゅうやけんこう)で①。

【率先□範】
(1級問題—正答率41.0%)

- ① 節電対策の一環として、社長が率先□範、クールビズで出社した。
- ② 人の意見をすぐ批判する彼の率先□範の態度は、そばで見ているにははらする。

★(誤答例)「率先規範」で②。(正答)「**率先垂範**」(そっせんすいはん)で①。

【同工異□】
(2級問題—正答率12.0%)

- ① この作品は、同工異□で、作者の世界観が多様に解釈される。
- ② この作品はずいぶん評判になっているようだが、私には先の受賞作と同工異□に思える。

★(誤答例)「同工異音」で①。(正答)「**同工異曲**」(どうこういきょく)で②。

【理非曲□】
(2級問題—正答率5.4%)

- ① ワンマン社長の理非曲□をわきまえない発想には、社員はみな強い反発を覚えている。
- ② ことわざの意味を理非曲□して、恥ずかしい思いをしたことがある。

★(誤答例)「理非曲解」で②。(正答)「**理非曲直**」(りひきょくちよく)で①。

どの問題も、文脈に即した漢字を考えて正確に書かなければいけません。漢字そのものは決して難しい字ではありません。1級としてはやさしいと思われる「率先垂範」の正答率があまり高くなかったのは、意外でした。

ここで取り上げた問題に限らず、どの級でも、正しい漢字を書くことが一つのハードルになっています。

人と人をつなぐ日本語

第4回日本語大賞 表彰式

去る2月24日、第4回「日本語大賞」(主催:日本語検定委員会)の表彰式が、東京・北区の東書ホール(東京書籍本社)で行われ、文部科学大臣賞受賞者4人が表彰されました。

計1,227点の応募の中から、第1次、第2次、最終審査にわたる厳正な審査の結果、4部門それぞれで、文部科学大臣賞、優秀賞、佳作が選ばれました。



文部科学大臣賞

小学生の部 **森田 悠生** 「**きっと、だいじょうぶ**」
千葉県・富津市立富津小学校3年

中学生の部 **鈴木 美紀** 「**『お先にどうぞ』が結ぶ心と心**」
宮城県・仙台二華中学校2年

高校生の部 **佐々木 綾子** 「**どうぞ**」
宮城県・古川学園高等学校1年

一般の部 **白澤 健志** 「**義父の一言**」
全日本空輸株式会社

表彰式は、審査委員でフリーアナウンサーの梶原しげるさんの司会で進行しました。主催者を代表して梶田叡一理事長の挨拶、審査員を代表して山内純子審議委員長の全体講評に引き続き、文部科学省生涯学習政策局生涯学習推進課の楠目 聖民間教育事業振興室長より、文部科学大臣賞が授与されました。その後、受賞者を代表して、白澤健志さんのご挨拶がありました。

*文部科学大臣賞と優秀賞の作品は、日本語検定公式ホームページでご覧いただけます。

こんなに面白い!

日本語の方言³

山田 敏弘

前回、方言は歴史だと言いましたが、では、方言はこの先、どうなっていくのでしょうか。

明治時代の中央集権的な国語教育により、現在までに日本語は多くの方言的特徴を失いました。近代国家として統一された標準語を持つということが十分意義深いことであったのは理解されます。たしかに、そのおかげで、私たちは、日本語で共通に話をするができるようになったほか、日本語が有する言語としての高みを共有することができるようになりました。

反面、地方は、あらたな「個性」を模索するようになりました。どこへ行っても同じ言葉を話し同じ物を買え同じ食べ物を食べるのでは、旅行に行く必要もありません。やはり、地方に行ったら地方ならではの文化や言葉を味わいたいものです。

最近、各地で方言を使った看板が多く見られるようになったことにお気づきのかたもいらっしゃるでしょう。沖縄の那覇空港では「めんそーれ」でお出迎え。飛騨高山の駅を降りれば「ようおいでんさった」と方言のおもてなしが受けられる。まるでテーマパークに来たかのように、一種儀礼的な印象さえ受けます。街を歩いても、その地方の言葉やイントネーションで話しかけられるとウキウキしませんか。特に終助詞は地域色満点。沖縄と高山は、同じく「～サー」を最後に付けますが、人はこんなところに旅情を感じるのです。

若い人の中にも、新しい方言を使う人が増えています。あまり方言的な特徴が顕著でない東京の若者が、各地の方言を取り入

れて会話やメールで用いるということもあるそうです。まるでファッションのようです。一方、たとえば、岐阜では、「～だよ」という言い方の「やよ」が、さらに若い世代で「やお

となるなど、新たな方言として根付く例も見られます。また、東日本大震災でも見られた「がんばっぺ」は、老若男女を問わず、東北の人に連帯感をもたらしました。方言にしかない味わいは消えませんし、必要なものなのです。

しかし実際には、方言語彙はどんどん消失しています。そのため、医療や介護の現場では、同じ地方出身者でも通訳がいるほどです。このような現状を打破するためには、共通語の教育と同時に、地域人としての個性教育の一環として、方言もきちんと教えていくことが必要になってくるでしょう。

私はかつて『みんなで使おっけ! 岐阜のことば』という本を著しました。なかなか市場規模が小さな県ですので売れてはいませんが、今でも大学の講義で「岐阜方言(岐阜語)講座」を開講し教えています。

日本人が、日本語を大切に、日本語の歴史を尊重し、そして日本語の多様性を享受することができるよう、地方から声を上げ続けていきたいと思っています。



まつお出版

やまだ としひろ / 岐阜大学教育学部 シニア准教授。
専門は日本語学。博士(文学・大阪大学)

「革新」の一步として

志学会 国語科主任 津野 重義先生



志学会は北海道の北見市と旭川市に場を構える学習塾です。一人ひとりの子供達の個性と学力に合わせた指導、わかるまで、できるまで教える授業の実現が志学会の使命と考え、全科専任講師という姿勢を貫き、2012年に20周年を迎えました。昨年12月、創立20周年目の節目に北見の地に新校舎を開校し、北見の子供たちに日本最高レベルの学習環境と日本最先端の教育技術を駆使した授業を提供しています。

近年、携帯電話などの情報機器の発達に伴い、子供たちを取り巻く環境は一変し、読書以外の言語活動からの情報の収集・伝達が中心の生活になりつつあります。それでは、学力テストや入試に必要な語彙力や表現力がなかなか育っていかないのが現状です。しかし、国語の力は主に、読解力と表現力という形式で試されます。それらの力を確実に伸ばしていくためには、子供たちの語彙力を高めていくほかはありません。

志学会国語科としての「革新」の一步として、今回日本語検定を受験させていただきました。豊かな日本語・美しい日本語の習得は子供たちの人生を豊かで美しいものにしていくと確信しています。子供たちの語彙力低下に歯止めをかけ、豊かな日本語を身につけてもらう良い機会を与えて頂きました。ほんとうにありがとうございました。

生徒の「ひとりだち」を目指して

川越市立特別支援学校 教務主任 設楽 美由紀先生

本校は、市内の保護者の強い願いにより県内で一番はじめに開校した知的障害特別支援学校です。古くから、高等部単独設置校として、学校教育目標「ひとりだちする生徒」のもとに、社会での自立を目指し、今年度、開校50周年を迎えました。卒業生は650人を超え、その多くが一般企業に就労しています。

本校の教育活動の最大の特徴は「働く力」と「生活する力」を育成することであり、そのために特別な教育課程を編成しています。3年間を通して、一人ひとりの生徒が職業観や勤労観を身につけ、生徒自らの意志で進路選択ができるよう支援しています。完全ノーチャイム、登下校時のタイムカード利用、作業着・体操着・制服などTPOに応じた服装着用や、あいさつ・返事・報告・連絡・相談の励行、生徒会会員としての責任と協働など、

規範的な言葉遣いを再認識できる検定です

大阪府大東市立住道中学校 教諭 奥村 彰悟先生



「日本語が乱れている」ということが話題になります。例えば、10年ほど前には「食べれる」「見れる」などの「ら抜き言葉」が問題視されていました。しかし、今では「ら抜き言葉」は話し言葉として定着したと思われます。この「ら抜き言葉」は「～ことができる」という意味で使われます。つまり、今の学校文法では、助動詞「られる」は「受身・可能・自発・尊敬」の意味を持ちますが、そのうちの「可能」の意味だけが分離し、独立したと考えることができます。このように、言語は時代とともに必要に応じて変化しています。日本語もそうやって変化を遂げていきました。

しかし、言語変化はゆっくりしたもので、一人の人間が生きている間にガラッと変わることはありません。だから、学校教育では生徒たちに対して「その時代の規範的な言葉遣い」を教えていく必要があります。規範的な言葉遣いは、社会に出たときに欠かせません。そこで役に立つのが日本語検定です。敬語の正しい使い方、適切な文章の書き方など、中学生にでも役に立つ検定内容です。住道中学校では、平成20年から準会場として日本語検定を実施しています。今まで日本語検定を受検した生徒からは「自分の日本語の力がわかった」「正しい日本語とは何かわかった」「受検してよかった」といった感想がありました。これからも日本語検定をいかして、生徒たちの言葉の力を育んでいきたいと考えています。

日常の教育活動に加え、各学期ごとに校内実習や産業現場等における実習を行い「働いて自立的に生活できる生徒」を育てています。

本校にとって、日本語検定は、6つの領域が本校が目指す働く力や生活する力に直結していること、生徒一人ひとりのコミュニケーションに係る尺度として活用できること、検定そのもの

や進級が生徒のモチベーションにつながるなどから取り組んでいます。8割以上の生徒が取得し、就労先にも、客観的なスケールとして好評をいただいています。



日本語検定委員会・研究員による授業

にほんご にほんご劇場



絵：福政 真奈美



時事通信社の専門情報誌

60 年余にわたる実績と信頼

内外教育 厚生福祉 地方行政 税務経理 金融財政Business

週2回お手元にお届けします

- 内外の一流執筆陣、第一線記者らの的確な解説と迅速な情報
- 実務家のためのノウハウ、実例を満載、資料・データも豊富

時事通信社 104-8178 東京都中央区銀座5-15-8 104-8178 東京都中央区銀座5-15-8 お問い合わせは 業務局 事業部 jigyokikaku@grp.jiji.co.jp www.jiji.com

教育における能力と可能性を導く最前基地となることを目指して
さまざまなシーンをサポートしてまいります!

学力調査 特別支援教育 教育シンポジウム 教育機関誌
意識調査 体力テスト 授業評価 学校評価 授業評価 教員研修

エデュフロント 企画・制作・コンピュータ処理・運用 本社 〒114-0004 東京都北区船橋 2-17-1
TEL: 03-5390-7568 Fax: 03-5390-7583 http://www.edufront.co.jp/

教育の印刷・信頼の技術
株式会社リーブルテック

教科書印刷で培った知識と技術を未来へ伝える

王子本社：〒114-0004 東京都北区船橋1-23-31 tel: 03-3927-6411(代)
埼玉工場：〒347-0004 埼玉県加須市古川1-2-3-1 tel: 0480-68-4761
http://www.livretech.co.jp/

平成 25 年度 第 1 回 日本語検定 受検案内

- [一般会場] **6月15日(土)**
[準会場] **6月14日(金)・15日(土)**
[申し込み期間] **3月18日(月)～5月17日(金)**
[実施都市] 全国の100都市以上で実施予定

[受検級の目安と受検料]

受検級	受検料	社会人	大学生	高校生	中学生	小学校 高学年	小学校 中学年	小学校 低学年
1級	6,000円							
2級	5,000円							
3級	3,500円							
4級	2,000円							
5級	1,500円							
6級	1,500円							
7級	1,400円							

※1級の受検には、2級の認定が条件となります。

公式ホームページ <http://www.nihongokentei.jp>

プレゼント・クイズ

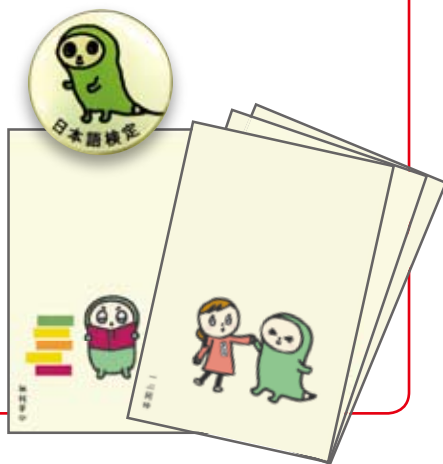
問題：「にほんご にほんご劇場」で取り上げた慣用語は何でしょうか。

○の部分を持って完成させてください。

『○が広い』

抽選で5名様に、オリジナル『にほんごバッジ』と『にほんご絵はがき』セットをプレゼントいたします。はがきに、クイズの答えと、お名前、性別、年齢、ご住所、ご連絡先（お電話番号またはメールアドレス）を明記のうえ、日本語検定委員会までお送りください。平成25年7月1日の消印まで有効です。当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。

（応募の際の個人情報は、本プレゼント以外では使用しません。）



特定非営利活動法人

 **日本語検定委員会**

〒114-8524 東京都北区堀船 2-17-1

【お問い合わせ先】 **0120-55-2858**

<http://www.nihongokentei.jp>

ごけん 平成 25 年春号 (No.13)